

洪水ハザードマップ

このハザードマップは台風や大雨などの際に「洪水や土砂災害のおそれがある区域」や「避難に関する情報」をまとめたものです。自宅などの状況を事前に確認し、危険が迫った場合は速やかに避難しましょう。



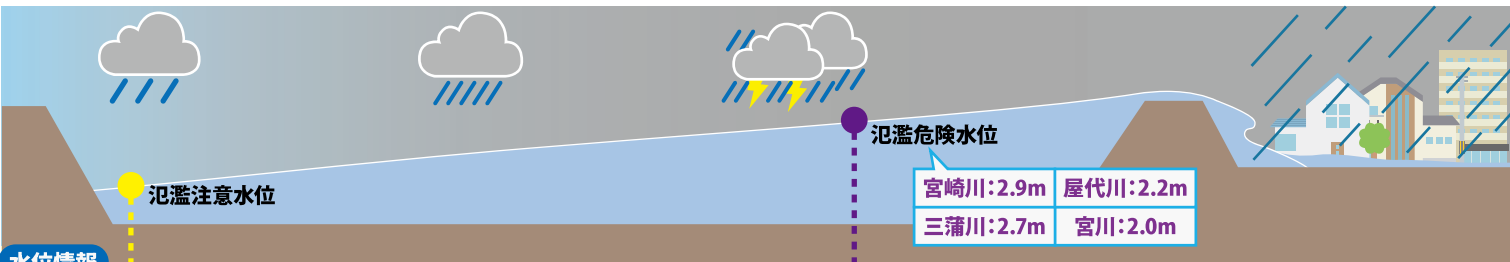
ハザードマップを確認して
わが家のマイ・タイムラインを記入しましょう！

●Yahoo!防災速報
アプリでもマイ・タイムラインを作成できます。山口県・周防大島町からの防災情報と作成したタイムラインに併せた行動確認が通知されます。

災害発生時のタイムライン

洪水 本マップに掲載している河川は、氾濫の危険性が高まると周防大島町より避難情報(警戒レベル)が発令されます。河川に関する情報は、「水位周知河川」と「その他の河川」によって異なります。「水位周知河川」とは、洪水により相当な被害を生ずる恐れがあるものとして水防法に基づいて指定された河川のことです。河川単位で水位情報が発表されます。

周防大島町内の
水位周知河川 三蒲川、宮崎川、宮川、屋代川



水位情報
氾濫注意水位
●洪水による災害の発生を警戒すべき水位
★災害に対する心構えを高め、非常時持ち出し品の確認をしておきましょう

氾濫危険水位
●洪水による災害の発生を特に警戒すべき水位
●警戒レベル4「避難指示」の発令判断の目安となる水位
★危険な場所にいる人は、全員避難を開始しましょう

洪水キキクルを活用した情報収集
洪水災害の危険度
高 危険切迫
危険
警戒
注意
低 今後の情報に留意

内水氾濫の発生
激しい雨が長く続くと洪水(河川氾濫)の危険が高まります
内水氾濫とは、雨量が下水道などの排水能力を超えた時や、河川などの排水先の水位が高くなった時に雨水を排水できなくなり、漫水することです。

洪水(河川氾濫)の発生
洪水(河川氾濫)とは、大雨によって河川などの水位が上昇し、堤防を越えて水があふれたり、堤防の土砂が決壊したりすることです。家屋の倒壊や流出など、大規模な被害を引き起こします。

警戒レベル4までに避難完了・安全確保



周防大島町からの避難情報
避難に時間がかかる人は避難開始！
※状況に応じて発令します

警戒レベル3 高齢者等避難
避難に時間がかかる人は避難開始！
※状況に応じて発令します

警戒レベル4 避難指示
危険区域内にいる人は全員避難！
※状況に応じて発令します

警戒レベル5 緊急安全確保
命の危険が迫っています
直ちに身の安全の確保を！

土砂災害

洪水が発生する雨量では、複合災害として土砂災害発生危険性も高まります。土砂災害とは、山や崖の土砂が崩れたり、水と混じった土砂が流れ下ったりして、人や財産に被害をもたらす自然災害のことであり、「がけ崩れ」、「土石流」、「地すべり」の3種類に分けられます。本マップの地図面では「土砂災害防止法」により指定された「土砂災害警戒区域」と「土砂災害特別警戒区域」を表示しています。洪水と併せて確認しておきましょう！

がけ崩れ
斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象です。
区域指定の基準
急傾斜地の高さ(h) 10m以内
傾斜度 30度以上
高さ(h)の2倍以内(但し、最大50m)
がけ崩れの前兆現象
●がけにひび割れができる
●小石がパラパラと落ちてくる
●がけから水が湧き出る
●湧き水が止まる・濁る

土石流
山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって、時速20~40kmという速度で一気に下流へと押し流される現象です。
区域指定の基準
土石流のおそれのある渓流
雨頂部
勾配が2度まで
土石流の前兆現象
●山鳴りがする
●急に川の水が濁り、流木が混ざり始める
●雨が降り続けているのに川の水が下がる

地すべり
斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象です。
区域指定の基準
地すべりの長さ(L)
L以内(但し250mを超える場合は250m)
地すべりの前兆現象
●地面にひび割れができる
●斜面から水が吹き出す
●沢や井戸の水が濁る
●樹木が傾いたり、根が切れる音がする

避難行動の手順

step 1 災害リスクを確認し、避難行動を考えます
ハザードマップ(裏面)には、洪水と土砂災害のおそれのある区域を表示しています。自宅や自宅付近にどのような災害リスクがあるかを確認しましょう。自宅や自宅周辺の災害リスクが低い(着色がない)場合には、むやみに動かず「屋内安全確保」を心がけてください。

洪水の場合 ▶ 浸水しない高い場所へ移動
●浸水想定区域内に自宅がある場合は、浸水の深さより高い場所に避難するか、浸水想定区域外に立退き避難をしてください。
●家屋倒壊等氾濫想定区域(紫斜線の範囲)に自宅がある場合は、区域外への立退き避難を徹底してください。
①立退き避難 緊急避難場所や知人宅など
②屋内安全確保または垂直避難 自宅や近隣建物への垂直避難 待機

土砂災害の場合 土砂災害の危険がない場所へ移動
●土砂災害警戒区域・特別警戒区域内に自宅がある場合は、区域外に立退き避難をしてください。
●区域内ではなくても、自宅と区域が近い場合は二次災害の危険性があるため、立退き避難を心がけてください。
①立退き避難 ※土砂災害の場合は立退き避難が原則です 緊急避難場所や知人宅など

step 2 避難情報(避難開始の合図)を受け取ります
周防大島町では、防災行政無線、メール、ホームページなど、様々な手段で避難情報を発信しています。避難情報を受け取る手段を事前に確認しておきましょう。※事前登録が必要な手段もあります。

周防大島町防災行政無線
屋外スピーカーや戸別受信機などでお知らせ！
放送では、緊急放送、災害情報、避難情報などをお知らせします。聞き逃した場合は、町ホームページか、放送確認ダイヤルで確認を！
町ホームページで確認！
電話で確認！ 0820-79-0898
戸別受信機も活用ください！
家庭に設置する戸別受信機も活用ください。無償貸与していますので災害時の給電所までお問い合わせを！

周防大島町防災メール配信システム
防災情報を事前登録したアドレスにメールでお届け！
事前登録したメールアドレスに、災害情報や避難情報などを配信します。「周防大島町防災メール」を検索し、登録用アドレスに空メールを送信して登録手続きを行ってください。
LINE 周防大島町 LINE
避難情報や災害情報だけでなく生活情報も併せてお届け！
緊急時・災害発生時の情報提供だけでなく、●イベントや観光情報 ●町政に関する情報 ●町立学校の教育情報 など、生活に役立つ情報も併せて通知しています。

河川の水位情報も確認できます！
山口県では、雨量、河川水位、潮位等の観測局の情報や土砂災害警戒情報、洪水予報、気象情報をリアルタイムに配信する「山口県土木防災情報システム」を運用しています。
水位が確認できる河川
●水位観測局 屋代川、宮崎川、三蒲川、宮川
●簡易水位計 山根川、立田川
山口県土木防災情報システム 検索
増水した河川に近づくことは、とても危険です。ホームページで確認したり、電話で問い合わせるなど、安全な手段をとってください。

step 3 避難行動を開始して安全確保！
step 1で避難が必要と判断された方は移動を開始します。避難先や避難のタイミングは、表紙の「わが家のマイ・タイムライン」を活用して、事前に決めておきましょう。
立退き避難をする場合のポイント
●プレーカーをオフ！
●要配慮者へ気配りを
●非常持ち出し品を持参し速やかに避難を！
●できるだけ徒歩での避難を！
●安全を確保したら連絡を！

災害に備える

★災害が発生すると物資の入手が困難になるため、平常時から各自で非常時持ち出し品や備蓄品を準備しておくことが必要です。

- 非常時持ち出し品**
- 持ち出し品は、リストを参考に、家族構成を考えて必要なものを用意しておきましょう。
 - 持ち出し品を入れる袋は、体に合った大きさを留意し、自分で背負うことのできる重さにしましょう。
 - 雨は降らなくなったときに荷物は各自のリュックに分割しておきましょう。

分類	項目
食料品 ※3日分目安(できれば1週間分)	□飲料水 □乾パン □缶詰 □レトルト食品 □栄養補助食品 □アメ・チョコレート □雑乳食 □粉ミルク □()
生活用品	□毛布 □タオル □ラップ □ティッシュ □ビニール袋 □マッチ・ろうそく □充電器 □予備電池(モバイルバッテリー) □簡易トイレ・紙おむつ(3日分目安) □生理用品 □()
医療・衛生用品	□常備薬 □包帯 □ガーゼ □ばんそうこう □お薬手帳 □処方薬 □() □() □()
感染症対策用品	□マスク □体温計 □ウェットティッシュ □アルコール手指消毒薬
貴重品	□現金(小銭も忘れずに) □通帳 □保険証 □印鑑 □身分証
衣料品	□下着 □靴下 □軍手 □長袖上着 □長ズボン □防寒具 □雨カッパ・雨具 □() □()
避難用具	□懐中電灯 □携帯ラジオ □ヘルメット □防災頭巾 □()
ペット用具 ※ペットがいる場合	□ケージ □リード □ペットシート □エサ・水 □()

※リストはあくまでも参考です。()内には必要なものを追加記入するなど、各ご家庭に必要なものを準備してください。

家庭での備蓄(ローリングストック)
「ローリングストック」とは非常用のためだけでなく、普段から食べているものや消耗品を少し多めに買って置き、使った分だけ新しく買い足していく循環型の備蓄方法です。
備える ※3日分を目安に！
日頃から少し多めに食材や加工品をストックしておきます
食べる・使う
消費期限が近いものから順に備蓄を使います
買った分だけ、少し多めに買い足しておきます
飲料食品だけでなく、日用品(トイレ用ペーパー、乾電池などの消耗品)もストックしておきましょう。また、アウトドアグッズも災害時には防災グッズとしてそのまま活用できます。